

その他、日照りの害を少なくするためのかんがい対策事業も進めています。

例えば熊本市ほか二カ町村にわたる「大門用水の改修」や、泗水町等の「合志川用水改良」及び三角町の「戸馳地区水田用水施設」等の事業がそれです。

こうした土地改良事業のほかに、輸送手段としての「鉄道の複線化・電化」という問題も進んでおり、熊本地区の改良工事、川尻・宇土間の複線化工事が、どしどし進められています。

また、高森・日ノ影線が今年から建設線に編入されて、去る十一月五日には、その祝賀会が開催されました。

“人づくり”も積極的に

「県計画」の三番目の柱は「人づくり」ということです。人づくりで最も大きな問題は「高校急増対策」といえます。

くわしく述べますと、三十五年に中学卒業生が三万八千人でした。三十六年には二万九千人に減っていますが、三十七年にはこれが四万三千人にふえ、三十八年には五万人、三十九年には最も多くて五万一千人にふえるという予想です。

そうして、三十九年をピークとして、次第に減っていく、四十五年では三十五年なみの三万七千人位におちつくわけです。

従来熊本県では、高校進学志望者の九割入学という線を維持してきたわけですから、少なくとも志願者の九割は高校に収容したいということで、高校急増対策を進めています。

県に劣っているとは思われません。

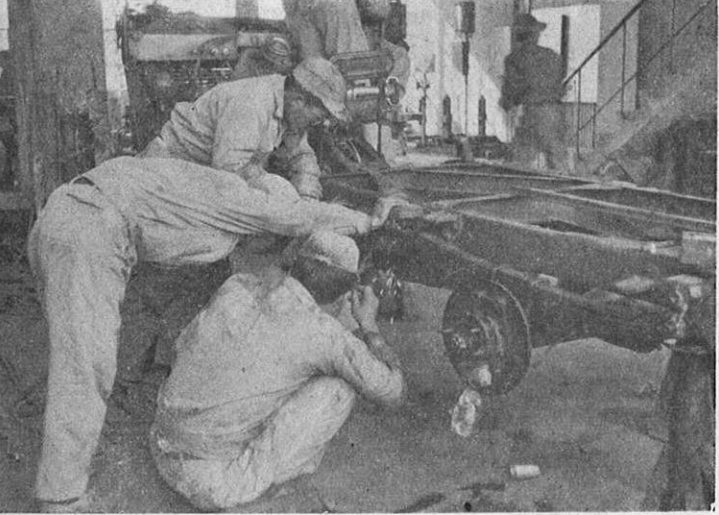
むしろ、最少の金額で効果を上げることが適切ではないか……と考えるわけです。

去る九月の県会で、急増対策の本格的な経費を計上しましたが、これまでにすでに五校の新設をみているわけです。

すなわち、水俣工業高校、熊本第二高校、玉名、球磨、天草の三つの工業高校計五校ですが、このほかに、既設の県立高校の学級増加数も十二学級にのぼっています。

もちろん、私立の高等学校も沢山ふえており、これらをあわせて、一応急増対策は順調に進められているといえます。

充実する職業訓練施設（総合職業訓練所にて）



「他県に比べて、急増対策に熱意がないではないか」

「予算が少ないうなかとを、よくい

われたことがありま

す。ところが、これはひ

とつには急増のピークといえますか、中学卒業生のふえ方が、一年位他県よりもおくられているということ、それから、今年開校した「県立第二高校」……これはご承知のように熊本城内の施設を、大蔵省と談判して、転用しているのですが……新しい高校をつくらうとすれば、およそ二億五千万円はかかるというのに、わずか二千万円位で開校しているということ、こういう点から、単に金額だけから見ればいくらか少ないかもしれませんが、対策自体としては、決して他

「県立第二高校」も開校した



いという考えで「地元負担軽減」の措置もとつていま

す。なおこれは特殊なことで

すが、精神薄弱児童の教育をする「特殊学級」は、現

在県内の小学校で六十九

学級もありま

すが、これは、九州で最も

多い学級数です。

「人づくり」の面では、これらのほかにまだいろいろの措置を講じている

のです。例えば「職業訓練施設の充実」という

ことです。黒石原に総合職

明日の農民を育成する経営伝習農場の実習スナップ

